

## 製品安全データシート

製品名: レクセルコーク

### 1. 化学物質及び会社情報

化学物質の名称: トルエン  
輸入・販売会社名: 日建総業株式会社  
住所: 埼玉県朝霞市浜崎3-1-1  
電話番号: 048-474-2211  
緊急時の電話番号: 048-474-2211  
FAX番号: 048-473-1815  
製造会社名: Sashco Inc.  
住所: 10300E, 107th Place, Brighton, Colorado 80601, U.S.A.  
電話番号(緊急時): 1-800-535-5053  
電話番号(情報): 1-800-289-7290  
製品識別 レクセルコーク、全色、スクイーズチューブとカートリッジグレード

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS 分類

物理化学的危険性:

火薬類	分類対象外
可燃性・引火性ガス	分類対象外
可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
支燃性・酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	区分2
可燃性固体	分類対象外
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	区分外
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	分類対象外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類対象外
有機過氧化物	分類対象外
金属腐食性物質	区分外

健康に対する有害性:

急性毒性(経口)	区分 5
急性毒性(経皮)	区分外
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気)	区分 4
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	分類対象外(粉じん)
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	分類できない(ミスト)
皮膚腐食性・刺激性	区分 2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分 2B
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	区分外
生殖細胞変異原性	区分外
発がん性	区分外
生殖毒性	区分 1A
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	区分 1(中枢神経系) 区分 3(麻酔作用) 区分 3(気道刺激性)
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	区分 1(中枢神経系、 腎臓、肝臓)
吸引性呼吸器有害性	区分 1

環境に対する有害性:

水性環境急性有害性	区分 2
水性環境慢性有害性	区分外

ラベル要素

絵表示またはシンボル:



注意喚起語:

危険

危険有害性情報:

引火性の高い液体及び蒸気  
飲み込むと有害のおそれ(経口)  
吸入すると有害(蒸気)  
皮膚刺激  
眼刺激  
生殖能力又は胎児への悪影響のおそれ  
中枢神経系の障害  
眠気及びめまいのおそれ  
呼吸器への刺激のおそれ  
長期又は反復ばく露による中枢神経系、腎臓、肝臓の障害  
飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ  
水生生物に毒性

注意書き:

[安全対策]

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
使用前に取扱説明書を入手すること。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
熱、火花、裸火、高温の物のような着火源から遠ざけること。  
-禁煙  
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。  
静電気放電火花による引火を防止すること。  
個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。  
保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
取り扱い後はよく手を洗うこと。  
環境への放出を避けること。

3.組成、成分情報

物質名または一般名	CAS 番号	Wt%	官報公示整理番号
トルエン	108-88-3	9-13%	3-2
VM & P ナフサ	64742-89-8	33-34%	
ポリブテン	9003-29-6	2-7%	6-774

#### 4. 応急措置

進入経路:

吸入、皮膚、眼、及び飲み込み

過剰ばく露の影響:

眼、皮膚、気道の痛み。長く吸入すると、粘膜の痛み、疲労眠気、めまい、立ちくらみ、頭痛、運動障害、吐き気を起こす危険がある。長期又は繰り返し接触すると皮膚炎、脱脂、視力のぼやけ、激しい眼の痛み、嘔吐、下痢、中枢神経系抑制、感覚の麻痺、または失神、呼吸困難、血液異常、角膜の損傷、肝障害、腎臓障害を引き起こす危険がある。

メモ:

溶剤への繰り返し及び長期にわたる過剰ばく露と恒久的な脳及び神経系の損傷との関連を指摘する報告がある。  
成分を濃縮し、故意に吸入すると非常に危険である。死亡する危険もある。最近の報告書(1991)では、「妊娠した女性がトルエンを嗅ぐと胎児の出生前トルエンばく露を引き起こし、そのような暴露経験のある母親の子供には、子宮内発育遅延等の様々な影響が出ている多くの事例がある。」と報告されている。

<救急手順>

吸入した場合:

換気の良い場所へ被暴露者を移動する。  
直ちに医師の診断をうける。  
必要であれば、酸素、または人工呼吸を施す。

皮膚に付着した場合:

流水で流し、石鹼水でよく洗浄する。  
汚染された衣服を脱がせる。  
再使用する前には汚染された衣服はよく洗う。

目に入った場合:

即座に最低 15 分間流水で洗う。  
直ちに医師の診断をうける。

飲み込んだ場合:

口をすすぐこと。  
直ちに医師の診断をうける。

#### 5. 火災時の措置

消火剤

乾燥薬品/消火泡

使ってはならない消化剤

棒状注水



特有の危険有害性

過度の熱、火気にさらされると密閉された容器内では爆発する危険がある。蒸気は常温で、爆発・発火することがある。蒸気は空気よりも重く、離れた点火源からも引火の危険がある。火気のもとでは、分解する可能性があり、刺激性・有毒ガスを発生する危険がある。

特有の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
容器及び周囲に散水して冷却する。

消火を行う者の保護

消火を行う者は、可燃性化学物質を消火するために設計された保護具を使用すること。

引火点:

華氏; 52° F (摂氏; 11°C)

引火性限界:

1.0%

DOT(PSN):

日用品(ORM=D)(セクション9参照)

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:

すべての発火源を取り除く。  
防爆機器で、そのエリアを換気する。  
不必要な人員は避難させる。  
個人用保護具を使用する。(以下のセクション8に記載)  
火花の出ない道具を使用する。

環境に対する注意事項:

河川、および自然界に排出することを避ける。  
吸着剤を使用することで、環境への排出をできるだけ抑える。

回収、中和:

少量の流出は吸収剤で抑えることも可能。  
大量の流出 — 少量の流出の手続きに準ずる。  
安全な場合は漏れ口を止める。堤防を築き流出を封じ込める。  
貯蔵されているものをポンプでくみ出すか容器を撤去する。余剰残留物を吸収する吸収剤を使用する。回収容器類は水でよく洗い、その際付近の下水道や水域などに流れ込まないようにする。健康及び汚染に関する規制に準じて処理する。

封じ込め及び浄化の方法・機材: 危険でなければ漏れを止める。

二次災害の防止策: 漏出物は該当する規制に準じて処理する。

## 7. 取り扱いおよび保管上の注意

### <取り扱い>

#### 取扱者の暴露防止

吸引しないこと。

幼児の手の届かないところに置くこと。

皮膚、眼への接触、蒸気の吸入を避けること。

取り扱い後、特に飲食の前には、手をよく洗うこと。

#### 火災・爆発の防止

熱、火花、火炎に近づけないこと。

使用しないときには容器を堅く閉めて、立てておく。

空の容器は有害残留物を含んでいる可能性がある。

防爆/火の出ない機器を使用すること。

#### 安全に化学薬品を使った作業を行うための予防措置

蒸気の蓄積を防ぐために、希釈換気装置か局所換気装置を使用する。以下の該当する基準に従い、環境濃度を抑制する。呼吸器保護を必要とするところでは、OSHA 基 29CFR1510.134 に従い、NIOSH/MSHA が認可した呼吸保護具のみを使用すること。

#### 安全取り扱い注意事項

酸化剤、酸、塩基との接触を避けること。

### <保管>

適切な保管条件: 110° F (摂氏 43.3 度) 以下で貯蔵する。

安全な容器の材質: プラスティック容器ではなく、ドラム缶を使用すること。

## 8. 暴露防止及び保護措置

環境濃度を以下の該当する基準に従い、抑制する。呼吸器保護が必要なところでは、OSHA 基準 29CFR1510.134 に従い、NIOSH/MSHA が認可した呼吸保護具のみを使用すること。

暴露限界値: 本製品はトルエン(TLV=50ppm)と、VM & P ナフサ(TLV=300ppm)を含有する。使用者は過剰暴露を防ぐために、適切な個人用保護具を使用しなければならない。  
(限界値(TLV)とは、通常の作業員が、1日に8-10時間、1週間に40時間、健康上の弊害がなく、暴露されても差し支えないと信じられている時間過重平均(TWA)である。

換気装置: 蒸気の蓄積を防ぐために、希釈換気装置か局所換気装置を使用する。  
防爆機器を使用する。  
火花の出ない道具を使用する。

保護具:  
呼吸器の保護具: 適切な呼吸器保護具を着用すること。  
手の保護具: 適切な保護手袋を着用すること。  
眼の保護具: 適切な眼の保護具を着用すること。  
保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)  
皮膚及び身体の保護具: 適切な顔面用の保護具、全身保護服、保護長靴等を着用すること。

衛生対策: 取り扱い後はよく手を洗うこと。

## 9.物理的及び化学的性質

### 物理的状态:

形状	高濃度液体
色	透明/白色
臭い	有機溶剤臭
Ph	データなし

沸点範囲: 華氏: 231° F-250° F  
摂氏: 111° — 121° C

重さによる揮発性物質の%: 44.3 %

発火点(SETA): 華氏: 52° F 摂氏: 11°C

引火性限界: 1.0%

## 10.安定性及び反応性

<u>安定性:</u>	通常の取扱いにおいては安定である。
<u>不適合物質:</u>	酸化剤 酸 塩基 アミン類
<u>避けるべき条件:</u>	高温 酸化剤との接触
<u>危険分解生成物質:</u>	二酸化炭素、一酸化炭素、様々な炭化水素
<u>危険重合:</u>	生じない。

## 11.有害性情報

レクセルの製剤に関しては、有害性の研究が特に行われていない。有害性情報は、使用される溶剤（トルエン、ナフサ）の有毒性に基づいている。定期的な使用からの有害な影響は通常見られない。しかしながら換気を充分にし、製品と皮膚との接触は最小限にするべきである。

継続的な暴露が予想される場合は、適切な個人用保護具が必要である。（例：換気装置、呼吸保護具、不浸透性手袋、眼の防護等）

<u>急性毒性:</u>	頭痛、吐き気、胃腸の痛み、鼻／のどの痛み、中枢神経系の不調、（めまい、眠気、衰弱、疲労、失神）などが考えられるがこれらに限定されるものではない。
<u>局所効果:</u>	皮膚の炎症が現れることがある。シトラスハンドクリーナー（かんきつ類系のハンドクリナー）で接触した部分を洗い、その後、石鹸水で洗う。炎症が続く場合には、医師の治療を受ける。
<u>感作性:</u>	どんな化学物質であれ、潜在的に感作物質を持っている。レクセルに関しても感作が起こる可能性があるが、その可能性は低い。
<u>慢性毒性:</u>	データなし
<u>長期毒性:</u>	データなし



## 12.環境影響情報

レクセルの製剤に関しての環境に対する影響の研究はされていない。

未使用の製品はその国／地方の規則に従って処分すること。

## 13.廃棄上の注意

### 残余廃棄物:

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

### 汚染容器及び包装:

関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

空容器を破棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 14.輸送上の注意

10.5 オンス及び 5.0 オンス容器のレクセルは、DOT の「消費者製品 CRM-D」に分類される。

それ以上の容量のレクセル容器は、DOT に分類される。

タイプ／クラス: 3

国連番号: 1133

正式発送名: 可燃性液体

## 15.適用法令

### 労働安全衛生法:

名称等を通知すべき有害物

(法第 57 条の 2、施工令第 18 条の 2 別表第 9)

(法令番号 第 407 号)

危険物・引火性の物

(施工令別表第 1 第 4 号)

第 2 種有機剤等

(施工令別表第 6 の 2・有機溶剤中毒予防規則

第 1 条第 1 項第 4 号)

名称等を表示すべき有害物

(施工令第 18 条)

### 労働基準法:

疾病化学物質

(法第 2 条第 2 項、施工規則第 35 条別表第 1 の 2 第 4 号)

化学物質排出把握管理法： 第 1 種指定化学物質  
(PRTR 法) (法第 2 条第 2 項、施工令第 1 条別表第 1)  
(政令番号 第 227 号)

消防法： 第 4 類引火性液体、第 1 石油類非水溶性液体  
(法第 2 条第 7 項危険物別表第 1)

船舶安全法： 引火性液体類(危規則第 2、3 条危険物告示別表第 1)

航空法： 引火性液体(施行規則第 194 条危険物告示別表第 1)

#### 16.その他の情報

安全に関する詳しい情報はトルエンと VM&P ナフサの MSDS を参照すること。